

## 国際化学肥料ニュース（2014年6月）

### 肥料業界の2014年6月動態

- \* 5月26～28日、IFA（国際肥料工業会）の第82回年度大会がオーストラリアのシドニーに開催された。世界75ヶ国540社の代表約1600人が出席した。

この会議においてIFAはこれから3年間の化学肥料需給関係に関する見通しを発表した。窒素系肥料、特に尿素の過剰状態がさらに悪化する。りん酸系肥料、主にりん安は過剰状態が続くが、悲観する必要がない。加里肥料は次第に需給バランスが戻ってくる。

2013～2017年の5年間、世界に新たに220の化学肥料プラントが建設され、そのうちアンモニア合成プラントが75ヶ所、尿素プラントが55ヶ所、すべて完成すれば、窒素系肥料の生産能力が19%増加する。この間の尿素生産能力が年率4.5%で増加するが、需要の増加率が年間3.5%未満と予測する。
- \* 7月2日、カナダCanpotexが日本との間に下半期の塩化加里について供給契約を締結したと発表した。CFR価格395ドル/トンで、上半期の380ドル/トンより15ドル値上げした。

Canpotexもアジア諸国に対して下半期の塩化加里価格を約15ドル/トンの値上げを通告した模様。
- \* ベトナム新聞の報道によれば、今年1～5月、ベトナムが計131万トン化学肥料を輸入し、昨年同期より14.9%減であった。輸入金額4.05億ドル、こちらも35.8%減であった。特に尿素の輸入量が2.7万トンしかなく、昨年同期より71.7%減であった。化学肥料輸入量が大幅に減少する理由は、国内肥料産業が発達てきて、窒素系肥料、特に尿素が自給できるようになったと分析した。
- \* 今年1～4月ロシアの尿素輸出量が172万トン、昨年同期より7.8%減であった。減少した原因是、今まで持っている南米やトルコの市場が廉価の中国産尿素に奪われた。輸出先の内訳は、ブラジル32.1万トン、アメリカ23.7万トン、メキシコ16.3万トン、ペルー16.1万トン、トルコ15万トン、ドイツ10.3万トン、ウクライナ10.3万トン。
- \* 5～6月東南アジアの塩化加里輸入状況は次のようである。

ベトナムはイスラエルICLとヨルダンAPCからCFR350ドル/トンの価格で1.5～2万トン塩化加里を輸入することになった。

マレーシアは5月にCFR320ドル/トンの安値で塩化加里を輸入した。現在国内に40万トンの在庫があり、輸入商社の指値はCFR325～330ドル/トンである。塩化加里大手

メーカーはマレーシアに対してすでに CFR350 ドル/トンの下半期希望価格を放棄したようである。

インドネシアは BCP から CFR350 ドル/トン未満の価格で 2.5 万トン塩化加里を輸入することになった。また、あるメーカーがインドネシアに CFR340 ドル/トンを提示したが、隣国マレーシアを例に挙げ、拒絶された。輸入商社は下半期に CFR325～330 ドル/トンの価格を要求する。

フィリッピンはヨルダン APC から CFR350 ドル/トンの価格で塩化加里を輸入した。

- \* ロシア Uralkali の執行役員 Dmitry 氏はインタビューに於いて、価格を維持するため、2014 年の塩化加里生産量を削減することは選択肢の一つであると述べた。Uralkali の 2014 年塩化加里生産量が 1250 万トンと計画したが、実際に 1100 万トンに留まるだろうと専門家が予測する。
- \* 6 月 18 日、インド STC は尿素入札結果を公開した。今回の尿素入札は中国尿素の非需要期輸出関税期間に照準するもので、調達量が不定量で、納品期限は 7 月 31 日であった。

今回インドの尿素入札には計 27 社から応札され、累計応札量 290 万トン。一番安い応札価格はシンガポールの Aries 社で、中国産尿素の CFR インド東海岸の Krishnapatnam 港価格 266 ドル／トンであり、換算して FOB 中国価格が 252～253 ドル/トンしかない。次いで、イラン尿素の応札価格は CFR インド西海岸価格 271～272 ドル/トンであり、換算して FOB イラン Assaluyeh 港価格が 260 ドル/トンである。ほかの応札価格が大体 CFR インド 272 ドル／トンである。

インドの尿素入札結果に対して、中国窒素工業協会（中国窒素肥料メーカーの組織）が緊急提案書を発表した。中国尿素の輸出価格を維持するため、中国メーカーは一致して Aries 社など中国尿素を安売りしようとする外国商社に尿素を提供しないようにと呼び掛けた。

6 月 25 日、インド STC 社が尿素入札した各社との契約数量と価格を公表した。中国のボイコットを受け、実際に 32 万トンしか契約できなかった。主な供給元と価格は次の通りである。Aries 社 12 万トン CFR266 ドル/トン、Fertisul 社 7～8 万トン CFR268.75 ドル/トン、Transglobe 社 6～8 万トンと Rare Earth 社 6 万トン CFR271 ドル/トン。他の応札者は辞退した。
- \* 6 月 19 日、イラン PPC 社が最新の尿素輸出価格を公表し、買手を募集している。尿素供給量が 7～9 万トン、FOB 価格 254～255 ドル/トンで、7 月納品。この価格は 7 月 1 日から始まる中国の肥料非需要期を想定して、中国からの廉価尿素に対抗することができる価格を設定するものである。一方、イラン Pardis 尿素工場が停止した影響で、PPC

社の尿素輸出量が激減し、1～5月の輸出量が29.6万トンしかなく、昨年同期より50万トンも減少した。

- \* インド政府肥料省長官 Ananth Kumar 氏が報道機関のインタビューで、食糧生産を維持するため、政府は予定されている本財政年度の肥料補助金削減計画を中止する可能性を言及した。Kumar 氏はインタビューの中で“政府が尿素の生産コストを削減して、農家に廉価の肥料を提供すべきである。肥料補助金を削減する理由がない”と述べた。

インド政府の2014～2015年度予算では肥料補助金を3000億インドルピー削減する予定であるが、補助金の削減により肥料価格が上昇し、農業生産に大打撃を与える恐れがあり、食糧の安全保障に問題があると議会と輿論が騒いだ。総選挙で当選した新政府は政策を改める姿勢を表明した。

ロイターの報道によると、原料コストの上昇と生産設備の老朽化で、インド国内尿素生産コストが高騰する。インド政府と肥料業界関係者は尿素小売価格を10%以上引き上げるべきと公言した。インド化学肥料の主原料が天然ガスで、1日に3150万m<sup>3</sup>の天然ガスを使い、その65～70%が尿素生産の原料に供する。

インド尿素の小売価格が5360インドルピー/トンと規制され、この10年間にずっと維持してきた。政府は生産コストと小売価格との差額を補助金で埋める。2007年から国内尿素生産量が2200万トンに停滞して、逆に需要量増え続け、今年が3000万トンになる見通しで、不足の800万トンが輸入で賄う必要がある。

インド政府肥料省は国内の尿素生産量を高めるため、老朽化で停止している8ヶ所の尿素生産ラインを補助金で整備を行い、再稼働させる計画である。

- \* ロシア Uralkali 社は7月からヨーロッパ向けの大粒塩化加里の価格を10～15ユーロ値上げし、CFR300～305ユーロ/トンにする予定である。また、第3四半期中に標準塩化加里も10～15ユーロ/トン値上げしたい。

Uralkali 社は、2015年の世界加里肥料需要量が今年度の5620万トンから5770万トンに上方修正し、過去最高の2011年の5700万トンを超えると予測する。現在、大粒塩化加里の供給に緊張感があり、標準塩化加里の国際貿易量も堅調であるため、値上げの条件が揃ったと判断した模様。

## 大手各社の営業業績

- \* イスラエル ICL は今年第1四半期の業績を公表した。売上高13.13億ドル、昨年同期とほぼ同様であるが、純利益が57%減の1.31億ドル。加里肥料販売量147万トン、昨年同期より12%増、3月末現在の在庫量が7%減の92.9万トンであった。

- \* ドイツ K+S は今年第 1 四半期の業績を公表した。売上高 11.89 億ユーロ、昨年同期より 7.1% 減、純利益 1.241 億ユーロ、こちらが 34% 減。EU 内の加里肥料販売量が 14% 増の 127 万トンであったが、EU 以外に 67 万トンしか販売できず、昨年同期より 27% 減少した。
- \* ベラルーシ通信社の報道によれば、ベラルーシ加里 (Belaruskali) の 2013 年売上高約 15 億ドル、昨年同期より 19.7% 減、純利益が約 80% 減の 1.359 億ドルであった。昨年 7 月にロシア Uralukali が BPC から離脱したことがベラルーシ加里に大きな打撃を与えたことが原因であった。
 

ベラルーシ加里はベラルーシの国営企業で、世界最大級の Starobin カリウム鉱脈を独占し、下には 4 つの鉱山、精製工場を有し、従業員 18491 名。昨年の塩化加里生産量 490 万トン、塩化加里の国際貿易に占めるシェア約 16% であった。
- \* チリの SQM 社は今年第 1 四半期の業績を公表した。塩化加里と硫酸加里の売上高 1.519 億ドル、昨年同期より 0.7% 減であった。ヨウ素製品の販売不振で、会社の営業利益が昨年同期より 46.6% 減の 8100 万ドルしかなく、この 4 年間最悪の業績であった。
 

SQM 社は今年の加里肥料生産量を 230 万トンと計画しており、先月から人件費を含め、生産コストを一段と削減する計画を打ち上げた。
- \* チリのリチウムと加里メーカー Rockwood Holdings 社は 2014 年第 1 四半期の業績を公表した。加里肥料売上高 420 万ドル、前年同期の 1210 万ドルより激減した。但し、リチウム事業の業績が好調で、全社の売上高 3.55 億ドル、純利益 2200 万ドルであった。
- \* ロシア Uralkali 社は 2014 年第 1 四半期の業績を公表した。加里肥料販売量 310 万トン、その内輸出量 260 万トン、昨年同期よりそれぞれ 63%、73% 増であった。平均輸出 FOB 價格 215 ドル/トンで、昨年同期の価格より 31% 低下した。営業利益 8.62 億ドル、昨年同期より 17% 増であった。
 

Uralkali 社は 2014 年世界の加里肥料供給量が昨年より 7% 増の 5800 万トンと予測する。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* ベラルーシ通信社の報道によれば、ベラルーシ加里 (Belaruskali) は東南部の Homiel 州 Petrikov 加里鉱山の開発計画を継続すると発表した。昨年ロシア Uralukali が BPC から離脱したことにより、当該加里鉱山の開発計画を一度棚上げされたが、加里肥料の需要が回復し、国際市場価格が持ち直したことを受け、ベラルーシ加里が開発を再開した。

計画では、2019年に鉱山の開発を完了し、加里鉱石を採掘する。2021年に精製工場も完成して、2022年1月1日から全面稼働を開始する。完成すれば、塩化加里の生産能力が150万トン/年、採掘年限は90年以上。

- \* ベラルーシが担当しているトルクメニスタンのLebap州Garrick加里鉱山と加里精製工場の建設がすでに40%完成した。当該プロジェクトが2012年から建設を開始し、2016年完成する予定。総投資額10億ドル、完成後の塩化加里生産能力が150万トン/年である。
- \* イラン新聞社の報道によれば、インドの化学肥料メーカーはイラン南西部Chabaher港に尿素工場を建設するためにイラン側の合弁相手を募集している。  
インドの尿素不足により、石油と天然ガスが豊富なイランに合弁の形で尿素工場を建設することが流行った。インドのRashtriya化学肥料社ともう1社の化学肥料メーカーがインド中央銀行傘下のSBI投資ファンドから11.6億ドルの資金調達に成功したが、イラン政府の建設許可が得られるために合弁相手を募集している。

## その他

- \* ロシアのUralkali社は6月に開催される株主総会に次の取締役候補者名簿を提出した。社外取締役として、外部からSergey Chemezov、Sir Robert MargettsとPaul Ostlingの3名、社内から現任のCEO Dmitry Osipovをはじめ、Dmitry Mazepin、Dmitry Konyaev、Dmitry Razumov、Valery Senko、陳健などが名簿に載っている。
- \* カナダAgrium社のCarseland尿素工場とAlberta尿素工場が今月に生産再開した。この2工場が3月22日に設備点検、ボイラ修理のために運転を停止した。Carseland尿素工場のアンモニアと尿素の生産能力が53.5万トンと68万トン、80日の長期停止により約15万トンの尿素減産となる。
- \* ノルウェーYara社はフランスBorealis社のLe Havre尿素工場の52.15%株式を取得する予定である。1980年代にYara社がすでにLe Havre尿素工場の47.85%株式を取得した。今回の買収が完了後、Le Havre尿素工場がYara社の完全子会社となる。Le Havre尿素工場のアンモニア生産能力40万トン/年、尿素生産能力48万トン/年であり、フランス国内最大の窒素肥料メーカーである。